# 令和6年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【本太小学校】

## ① 今年度の課題と授業改善策

| | 学習上・指導上の課題 | | 授業改善策【評価方法】 |
|---|---|---|---|
| 知識・技能 | <学習上の課題><br>授業で学んだことを他の学習や生活に生かしていく力に課題がある。<br><指導上の課題><br>実生活との関連性や教科横断的な結びつきを意識した学習活動の計画・実施。 | ⇒ | ICTを効果的に活用し、単元終盤では、学んだことを活用したまとめ方の工夫をする。（リーフレット作りやプレゼンテーション、ポスターセッションなど）【学期に1度の実施】<br>スクールダッシュボードを活用したり、意図的・計画的な設問等による振り返りの時間を確保したりする。【学年の実態に応じて単元・教科ごとに設定し、必ず単元の最後には振り返りを実施】 |
| 思考・判断・表現 | <学習上の課題><br>話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることに課題がある。<br><指導上の課題><br>目的に応じた話合い活動や協働的な学習の工夫や評価の充実。 | ⇒ | 話合いの視点を明確にしたり、相手意識をもたせたりし「相手に伝わるように話す」ことができるようにする。また、ICTの共同編集機能や共有機能等を活用し、協働的な学びを通して、考えを表現したり深めたりする。【R6さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が90%以上】 |

## ② 全国学力・学習状況調査結果について（分析・考察）

| | |
|---|---|
| 知識・技能 | 全国平均と比べて国語・算数ともに高い正答率であった。しかし、「算数は好きですか」の設問における肯定的な割合は6割、「国語は好きですか」の設問における肯定的な割合は7割にとどまっており、興味関心を引き付けたり、知識をより深めたりする指導を工夫していく。また、「算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」の設問では8割の児童が肯定的な回答をしている。実生活と結びつけた指導の工夫やねらいに応じた振り返りの時間の充実を今後も継続していきたい。 |
| 思考・判断・表現 | 全国平均と比べて国語・算数ともに高い正答率であった。一方で、国語・算数ともに記述式の問題において途中で回答をあきらめたり、全く問題に回答しなかったりする児童の割合は10%であった。また、最後まで記述していても他の設問に比べて誤答が目立つため、読み取った情報を整理し、自分の考えを明確に表現する力をより一層身に付けさせたい。 |

## ③

| | 中間期報告 | | 中間期見直し |
|---|---|---|---|
| | 評価（※） | 授業改善策の達成状況 | 授業改善策【評価方法】 |
| 知識・技能 | B | 教科や単元の特性に応じて、ICTを活用した授業マネジメントの工夫をすることができた。学年の実態に応じて振り返りの時間を確保することができたが、学習効果をより高めていくために、視点を明確にした振り返りを実施していく。 | 変更なし |
| 思考・判断・表現 | B | 夏季休業中に、職員研修の機会を設定し、ICTの共同編集や共有機能の効果的な活用の仕方について学んだ。今後の授業で指導に生かしていく。「相手に伝わるように話す」ことには、個によって課題が見られるため、引き続き、相手意識をもたせる指導を工夫していく。 | 変更なし |

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（概ね達成）C 6割未満（あと一歩）

## ④ さいたま市学習状況調査結果について（分析・考察）

| | |
|---|---|
| 知識・技能 | どの教科、どの学年においても市の平均値を上回っている。<br>将来の意識に関する質問項目「将来の夢や目標をもっていますか」では、小5、小6ともに市の平均より3～7ポイント下回る結果となった。また、学びに向かう力に関する質問項目では、「算数」「理科」の教科において学年が上がるにつれて肯定的な回答が減少する傾向が見られた。引き続き、「おもしろい」「不思議」「好き」など、児童の興味・関心や知的好奇心を高める授業改善に取り組んでいく。 |
| 思考・判断・表現 | 全般的に市の平均を上回っている。小5、小6の国語・算数において、同様の課題が見られた。国語では、「話すこと・聞くこと」の領域において、話し手の意図を捉えて適切に助言することや、「書くこと」の領域において、自分の考えが相手に伝わるように表現方法を工夫することに課題が見られた。算数では、「数と計算」の領域において、示された場面から複数の数量を用いて、必要な数量を選び立式することに課題が見られた。中学年でも国語・算数ともに同様の傾向が見られた。 |

## ⑤

| | 評価（※） | 授業改善策の達成状況 |
|---|---|---|
| 知識・技能 | B | ICTを活用した授業づくりが定着しつつある。個に応じてドリルパークやその他学習アプリを効果的に活用することができた。引き続き、ICTを使うことが目的ではなく、文房具として児童が選択して使用することができるよう、職員間で共通理解を図り、よりよい授業づくりを推進していく。また、高学年を中心に「ルーブリック評価」を活用する学級が増えてきている。児童一人ひとりの達成状況を見取ることができるため、個に応じた指導に生かすことができた。 |
| 思考・判断・表現 | B | 「相手に伝わるように話すことができる」を共通のテーマに掲げ、相手意識をもたせ、意図的な話合いや交流活動の場を設定しながら、授業改善に取り組んできた。その結果、R6年度さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」の質問項目において、肯定的な回答の割合が90%を超えた。 |

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（概ね達成）C 6割未満（あと一歩）

## ⑥ 次年度への課題と授業改善策

| | |
|---|---|
| 知識・技能 | 全体的には基礎的・基本的な知識の定着を図ることができている。しかし、個人差が大きいため、引き続き、「単元テスト」や「ルーブリック評価」等から児童の学習状況を把握し、より一層個に応じた指導に生かしていく。また、比較的学力の高い児童に対して知的好奇心を高めるような授業づくりができるよう、全学年で重点的に取り組み、R7年度の全国学力・学習状況調査やさいたま市学習状況調査等で引き続き、検証していく。 |
| 思考・判断・表現 | 相手意識をもち、根拠をもって伝えることができる児童が増えている。また、発表や交流活動に対して意欲的に取り組む児童が多い。一方、相手の意図を汲み取って聞くことや書くこと、場面設定から状況を想像して問題解決する力には課題が見られる。そのため、教科横断的に「話す」だけでなく「聞く」ことに価値を見出したり、場面を図に整理して活用する力を身に付けることに重点を置いていきたい。そして、協働的な活動において、教師がどのように関わることが効果的なのか検証していく。 |